



# 岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

レシピエント骨髄由来平滑筋前駆細胞と標的とした  
移植心冠動脈内膜肥厚の遺伝子治療

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 義雄 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/666">http://hdl.handle.net/20.500.12099/666</a>

# は し が き

心臓移植後の慢性拒絶反応とされる冠動脈内膜肥厚は、病態、予防法、治療法とも不明であり、心臓移植後の長期予後を左右する最も深刻な問題となっている。この病態に関する最近の研究では、冠動脈内膜肥厚病変を構成する内膜平滑筋細胞のほとんどがレシピエント由来であり、その中にはレシピエント骨髄由来平滑筋前駆細胞が含まれていることが示唆されている。したがって、移植心冠動脈内膜肥厚病変における平滑筋細胞はレシピエント循環血中の骨髄由来幹細胞から派生している可能性があり、冠動脈内膜肥厚予防に対する治療戦略としては、レシピエント骨髄幹細胞に由来する平滑筋前駆細胞を標的とすべきであると考えられる。そこで本研究では、上述の Ang-1/TIE 2 システムを標的とし、独自に開発した遺伝子導入法である DNA コーティング金粒子カウンターショック法を用いて遺伝子工学的に作製した TIE 2-Ig 遺伝子を効率的に導入することにより、ドナー心冠動脈内皮細胞とレシピエント骨髄由来平滑筋前駆細胞との相互作用を移植臓器局所で制御し、冠動脈内膜肥厚を抑制することを目的とする。

## 研究組織

研究代表者	森	義雄	(岐阜大学医学部助教授)
研究分担者	岩田	尚	(岐阜大学医学部附属病院講師)